

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

1面	杏林教育の特色を強化・推進 3学部長が新任 新執行体制スタートへ	4面	学生生活実態調査 学修と就職意識	
2面	杏林大学研究推進センター発足へ 研究活動加速へ 環境整備 成果あげるグローバル人材育成推進事業	5面	卒業生、在学生リレー 水戸赤十字病院 長野裕幸さん 総合政策学部 加瀬敦士さん	
3面	杏林見聞録② 医学部 山田深講師 地(知)の拠点整備事業 地域志向教育始まる	杏林年代記 医学部創設 - 1970年の杏林学園	6・7面	学部・大学院トピックス
		8面	連載 金田一教授の研究室 健康ひとくちメモ 数字でみる杏林大学	

2016年4月 井の頭キャンパス開設

杏林学園創立50周年と時期を同じくして計画が進められている新キャンパスは、建物内部の詳細な構成はまだ確定していませんが概要がほぼ固まり、1月の三鷹市景観審議会で計画が承認されました。

新キャンパスは全国的にも知られている地名をとり「井の頭キャンパス」と命名されました。建物は、保健学部2棟、文系学部2棟、本部棟それに食堂や国際交流プラザ、クラブ活動の部室等が入る共用厚生棟の全て5階建て6棟で、総延べ床面積は約46,500㎡、いずれも免震構造となっています。

井の頭キャンパスは八王子キャンパスからの移転に加え、新たに医学部の講義室を設置し、医療・保健系と人文・社会科学系の連携が図られます。

井の頭キャンパスは順調にいけば夏前に着工され、2016年4月オープンの予定です。



周辺地域との調和を大切に、緑豊かな学術的雰囲気が漂う学び舎を目指しています。正門側から見た完成予想図（完成時はこれとは異なる可能性があります）

杏林教育の特色を強化・推進 3学部長が新任 新執行体制スタートへ

昨年末の跡見裕学長再任(任期4年)につづいて1月の理事会で副学長と4学部長が選任(ともに任期2年)され、新年度からの大学・学部のトップ体制が決まりました。4学部長のうち3学部長が新たに就任するフレッシュな陣容となりました。

2年後は学園にとって節目の創立50周年を迎えます。井の頭キャンパス開設を控え、この先2年間は杏林大学が飛躍するために教育成果を一層高めていく特に大切な時期となります。大学・学部をリードする6人に今後の取り組み方針を聞きました。



**学部融合教育と
global&localの学び**

あとみ ゆたか
学長 跡見 裕

2016年に誕生する井の頭キャンパスは、三鷹駅、吉祥寺駅から交通の便もよく、近くには三鷹の森ジブリ美術館、井の頭公園などがあります。この恵まれた環境の中で、学生諸君がどのように成長するのが楽しみです。

また、三鷹キャンパスも近く、医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の垣根がより低くなり、相互の教育面を含めた交流が密になるでしょう。総合政策学部の学生が保健学部で地域の健康づく

り政策を考えることや、外国語学部の学生が医学部の学生とともに、国際観光医療のあり方を勉強することも考えられます。医学・保健学部の学生が総合政策学部で医療経済を学び、あるいは外国語学部で語学の実力をつけるなどは、考えてもわくわくします。

本学は、平成24年に文部科学省「グローバル人材育成推進事業」に、25年には同省「地(知)の拠点整備事業」にそれぞれ採択されました。この二つの事業に採択された大学は全国でも数少なく、杏林大学のいままでの実績が高く評価されたものといえます。まさに、globalとlocalが私たちの大学で車の両輪となっています。これらを一層充実させるには、学生諸君、全教職員の力が必要です。皆さんのご協力を期待します。



**異文化に触れ、
行動力を身につける**

副学長 ポール・スノードン

大学の役割は、学生に教養を身につけさせ、個性を伸ばしてゆくことだと思っています。

本学が大学全体で進めているグローバル人材育成プログラムは順調に推移しています。ネイティブ教員を増強したことで、授業や語学サロンで多くの学生が彼らと触れ合い異文化を肌で感じる機会が増えました。

留学先は現時点で12の国と地域の39校となり、より留学しやすい環境を整え

ました。このように学内外で語学力、コミュニケーション力を高めた学生たちが昨年は国内のスピーチコンテストで高い評価を受けるという嬉しいニュースもありました。

私は学生たちに、広い知識や分析力にもとづいて柔軟にイニシアティブをもって行動できる力を身につけてほしいと願っています。特に文系学部では教養教育とともにグローバル化に力を入れるために、カリキュラムや授業などを工夫して学生がレベルアップを感じることができるよう引き続き取り組みます。

2016年のキャンパス移転に向けてしっかりと実績をつくりたいと思っています。

社会に貢献できる 医師の育成

わたなべ たかし
医学部長 渡邊 卓
(2014年4月就任)



学生の皆さんには初志を忘れず、社会に貢献できる医師になってほしいと願っています。卒業時点での臨床能力を充実させるために、また国際的な医学教育の質保証に応えるためにも、参加型の臨床実習を充実する必要があり、そのためのカリキュラムの見直しに、腰を据えて取り組みたいと考えています。

また、学生の皆さんの中には世界の医療の実情に触れてみたいという人もいる

ことと思います。平成26年度、25名の6年生が欧米での臨床参加型実習に参加する予定です。こうしたグローバル化への動きに応えるために、新年度から、英語の授業では対話を重視し、きめ細かい指導ができるよう能力別の少人数クラスを導入します。

教員が専門分野の垣根を越えて自由闊達に意見を交換し合う機会を設けるなど、医学教育の充実に取り組んでいます。

最後に、学生の皆さんは授業やクラブ活動だけでなく、他の学問に触れたり、様々な分野の人たちと交流したりして視野を広げてもらいたいと思っています。大学時代にしか出来ないことであり、医師としてとても大切なことだからです。



**医療従事者としての
自覚を高める**

おおたき じゅんいち
保健学部長 大瀧 純一

入学時、学生たちは漠然と医療現場で働く医療従事者の夢を持ち、期待に胸を膨らませていますが、現実の医療現場は厳しいものです。

私たちは4年間で、学生を社会が求める人材に成長させる教育を行います。クラス担任や授業担当教員が、学生生活や授業の相談に応じる体制をとっています。一見高校生活の延長のようですが、大きな違いがあります。多くの教員が医

療従事者の経験を持つため、将来医療従事者となる学生と教員は仲間になります。この環境を最大限に利用し、教員と共有する時間を増やしてください。

日本社会が急速にグローバル化する中で、今年度の入学試験は英語の配点を上げるなどして語学を重視しました。在学中は海外の医療現場を学び、語学力の向上を図る短期留学の制度があるほか、外国語によるコミュニケーション能力を向上させるためにe-ラーニングの活用や学内の教育施設の利用を推進するなどして語学教育にも力を入れます。

学生には、生きた辞書でもある教員から多くを吸収し、様々な機会が心の糧となる日々を過ごしてほしいと思います。

実社会をしっかりと歩んでいくための教育

おおかわ まさとし
総合政策学部長 **大川昌利**
(2014年4月就任)



学生数に比較して教員数が多く、面倒見がよいのが総合政策学部の特長です。総合政策学部では、今後一段と初年次教育を充実させるほか、演習等を通じて、それぞれの学生にあった教育を徹底して行っていきます。学修成果が実感できれば学生には自信がつきます。自信をもって前へ踏み出してほしいと思っています。学生が大学での学びの面白さを存分に味わえるよう、教員は教育・研究・学務にこ

れまで以上に熱心に取り組んで参ります。また、本学部には「学際演習」という特徴的な演習があります。社会で起きている様々な出来事は複眼的な思考で見なければ、その本質を理解することはできません。「学際演習」は、実社会のある問題をテーマに経済、法律、環境など専門分野の異なる複数の教員が一緒になってそれぞれの視点からアプローチするものです。これらに加え、日本だけでなく世界で通用するロジックを持つための「グローバル教育」や都市型高齢化への対応など「地域と大学」の要素を取り入れるなどしてさらに充実を図り、新しい学びの可能性を広げたいと考えています。学生に実社会をしっかりと歩んでいく力をつけることが私たちの使命です。

“moving global” “staying local”

さかもと
外国語学部長 **坂本ロビン**
(2014年4月就任)



杏林大学に着任して4年になります。他大学等での教員経験もありますが、杏林大学はアットホームな雰囲気のある大学と感じています。私たち外国語学部では英語能力と中国語能力そしてホスピタリティに重点を置いた教育をしています。いまの日本で、外国人や外国と全く関わりのない仕事はありません。海外で活躍できる人材“moving global”もそうですが、日本でも

国際感覚をもって外国人と仕事ができる人材“staying local”も育てたいと思っています。外国語学部で学び、卒業していく人にはそういう場面ですっきりと仕事ができる人になってほしいと思います。大学生活の過ごし方も大切です。学生には目標をたて、そのために何をすべきか考えてほしいと思います。その目標を達成するための支援を私たちは惜しみません。何よりそこには共に苦勞を乗り越え、喜びを分かち合う生涯の友がいるはずです。4年間の大学生活で成長する学生をたくさん見てきました。勇気とチャレンジ精神をもって外国語学部で皆さんの潜在能力を開花させてください。

杏林大学研究推進センター発足へ

国際的にみると全体として日本の研究力は相対的に低下傾向にあるとされ、世界に伍していくために、またイノベーションの加速、社会・経済の発展に寄与するために今、大学の研究力の向上が求められています。本学の研究環境を整備し、研究活動を加速させることを目的とした杏林

大学研究推進センターの活動が、いよいよ、2014年4月からスタートします。マリア免疫の専門家として活躍する一方、各種学会、大学などのアカデミアにおける男女共同参画の現状にも詳しい杏林大学研究推進センターの小林富美恵センター長(本年4月就任)に伺いました。

研究活動加速へ 環境を整備

こばやし ふみえ
研究推進センター長 **小林 富美恵** (医学部感染症学教室 教授)



小林 富美恵：専門は寄生虫免疫学。学位(医学博士)取得後、米国ハーネマン大学(現：ドレクセル大学)、ウィスコンシン大学で博士研究員として、2年間、マリア免疫の研究を行う。その後、「中華人民共和国協力計画・寄生虫対策援助」、「日米医学協力研究会アジア調査研究」、タイ王国マヒドン大学での「拠点大学方式による学術交流事業」(日本学術振興会)に専門研究者として参画。日本寄生虫学会 理事、日本熱帯医学会 理事、日独原虫病協会 理事、日本寄生虫学会東日本支部長、日本原生生物学会 編集委員、日本獣医寄生虫学会 / 日本獣医学会 評議員

研究推進センターの取り組み

研究推進センターは杏林大学の4つの学部の研究・研究者の支援をします。具体的には、女性や若手研究者の支援・公的研究費獲得のための支援・学内の最先端大型研究機器情報の一元化や共同研究施設との連携により学際研究の推進を図ることなどです。これらにより杏林大学の研究環境を整備し、研究活動を加速させていきたいと考えています。

女性・若手研究者支援

現在、本学には216人の女性医師・研究者が在籍しています。すでに女性医師・研究者のワークライフバランスについて考える話し合いなどもしてきましたが、昨年秋には、第3次中期計画の研究推進実行部会の中に女性研究者支援ワーキンググループをつくり、女性研究者の現状を把握するため、そしてニーズを吸い上げるための一歩としてアンケートを実施しました。アンケートの結果は今後の研究

推進センターの活動の素地として役立てたいと思います。同時に、平成26年度文科省の女性研究者研究活動支援事業の助成金獲得を目標にしています。

女性や若手研究者が研究に専念するためにはどのような支援や体制が必要なのか、研究に必要な費用をどう獲得するのかなどの課題に取り組んで、杏林大学の研究力をあげたいと考えています。

いま、「2030*」を合い言葉に女性の管理職の割合を増やそうという動きがあります。STAP細胞を発見した小保方晴子さんの活躍は世界中を驚かせ、若き研究者に希望を与えました。杏林大学研究推進センターはこのように追いついていきたいと思っています。

※2020年までに各分野で指導的立場の女性(管理職レベル)を30%にしようという政府公約。2010年12月に閣議決定された第3次男女共同参画基本計画に基づく。

異分野融合で広がる共同研究

2年後には八王子キャンパスの保健学部、総合政策学部、外国語学部、大学院保健学研究科及び国際協力研究科が井の頭キャンパスに移転します。これにともない、研究の異分野融合、共同研究の可能性が大きく広がります。

研究推進の環境づくり

若い研究者にとって留学は意義深いものです。私の研究は留学時代のテーマが基礎になっています。研究者として大きく飛躍するには、若い時に「違う」釜の飯を食べ、海外で生涯の師や仲間を得ることが大切です。

女性に限らず、海外で高い実力をつけた若手研究者が再び大学で(杏林大学に戻り)研究を継続できる環境を、将来、ベテラン研究者の支援も受けながらつくりたいと思っています。

また、女性研究者を増やすためには女性の大学院進学率を増やすことも考えなければいけません。

研究者が自らのライフスタイルも重視し、生き生きと研究を進めていけるような環境づくりを目指すセンターでありたいと思っています。

女性・若手医師/研究者活動支援講演会

日時：2014年3月24日(月) 14:00~15:30
講師：塩満典子氏 (JAXA国際部参事・男女共同参画推進室長)
会場：三鷹キャンパス・外来棟10階第1会議室、八王子キャンパス・D棟1階 外国語学部大会議室
※ 問い合わせ 公的資金企画管理課

平成24年度文部科学省 グローバル人材育成推進事業 学生の海外留学・研修を推進



「世界を変えるアイデア」を発表する杏林大学チーム「Apricot Jaguars」(左)。大画面に映し出された発表タイトル「First Mother Camp」。内容・構成・表現力ともに高い評価を受けた

グローバル人材育成推進事業とは、若い世代の「内向き指向」を克服し、国際社会で活躍できる人材を育成するため、国(文部科学省)が重点的に財政支援する事業です。杏林大学は平成24年度に本事業に採択され、「卓抜した語学力の強化」、「スマートでタフな交渉力の涵養」、「海外研修・留学の促進」の3課題に取

組んでいます。**英語によるプレゼンテーションで全国ベスト8**
中国語サロン・英語サロンの常設、同時通訳スタジオの設備更新、特任教員(母語話者)4名の新規採用、また英語e-ラーニングの全学展開等により、「卓抜した語学力の養成」が進んでいます。

昨年11月24日に開催された本事業の採択校イベントでは、本学を含む選抜8大学の学生が「世界を変えるアイデア」について、英語によるプレゼンテーションを行いました。本学の学生チームは「First Mother Camp」というテーマでプレゼンテーションを行い、高い評価を受けました。また、11月9日に開催された第3回全国大学生マーケティングコンテストでも決勝に出場し、堂々全国ベスト8に勝ち進みました。

その他、全日本中国語スピーチ、全国学生英語プレゼンテーション、森田杯・英文毎日杯 日本文化プレゼン等のコンテストに出場し、学生たちも大いに自信がついたことと思います。

アクティブ・ラーニングで、スマートでタフな交渉力を涵養

「スマートでタフな交渉力」を涵養する場としてアクティブ・ラーニング教室

を開設しました。この教室では、ケーススタディ演習による学際的授業の実施、総合政策学部と外国語学部の連携によるPBL型の演習等が行われ、80%近い教室稼働率の実績を挙げています。今後はルーブリック(学修到達度評価基準)等により、学生のコミュニケーション・交渉力の客観的評価をすることとしています。

協定校拡大で、学生の海外研修・留学参加が増大

学生の留学先を拡大するため、海外協定校・留学プログラムの開拓を行っています。これにより海外の5大学等と新たな提携が実現し、協定校は39校まで増大、更に4大学との協定締結に向けて調整が進んでいます。

留学プログラムの拡大と本学独自の海外留学・研修奨学金制度の普及等により、平成25年度は138人の学生が海外留学・研修に参加しました。

杏林見聞録

やまだ しん

医学部 山田 深 講師

大学新聞では杏林の知的財産である教員の研究活動、優れた社会貢献やユニークな取り組みなどを「杏林見聞録」のコーナーで随時紹介していきます。

第2回は、地上から日本人宇宙飛行士の健康管理等を行う医学部の山田深講師です。人類の英知の結晶ともいえる宇宙開発。国際宇宙ステーション（ISS）での長期滞在が可能となったいま、数々のミッションを遂行する宇宙飛行士の健康管理が重要視されています。第38次/第39次長期滞在クルーとして2014年5月までISSに滞在している若田光一飛行士の健康管理を担当し、宇宙医学実験にも携わった、山田講師にインタビューしました。

千秋さん、ポスドクの연구원たち、エンジニアや事務職員の同僚たちと、生理的対策（筋肉や骨など）、放射線被曝管理、軌道上医療（遠隔医療）、宇宙船内環境、精神心理支援の5つの分野の研究をしていました。

私は日本人飛行士の古川聡さん（2011年6-11月）、星出彰彦さん（2012年7-11月）の国際宇宙ステーション長期滞在ミッションに携わり、研究者として宇宙での医学実験の支援、臨床医として飛行士の運動面での健康管理の両方を担当していました。搭乗前の体力トレーニングから始まり、約半年間にわたる宇宙滞在中の運動の管理、さらに帰還の翌日からNASA（アメリカ航空宇宙局）のジョンソン宇宙センターで始まるリハビリに立ち会います。

帰還後のリハビリは45日間行うことが決められています。約2週間で軽く走ったり、車の運転ができるまで回復しますが、元の体力に戻るのには1カ月ほどかかるというデータがあります。長い間、寝たきりになっていた患者さんが歩けるようになるまでにはかなりの時間が必要ですが、飛行士は宇宙滞在中のトレーニングにより筋肉が比較的保たれていることもあり、歩けるようになるまでの回復が意外と早かったことは驚きでした。

宇宙での髪の毛とカビの研究

宇宙で伸びた髪の毛を採取して毛根に含まれる遺伝子の変化を調べ、宇宙環境が人体に与える影響を調べるという医学実験を担当していました。髪の毛を抜いて保存するという実験の操作自体は、比較的簡単なものでしたが、問題は採取した髪の毛を地上に回収する方法でした。髪の毛を抜いたまま放置すると毛根のたんぱく質が変性してしまうので、すぐさま冷凍保存して、地球に持って帰る必要がありました。宇宙ステーションから日本まで、貴重なサンプルを破損することなく、一定の温度で輸送することには大変苦労しました。

もう一つ担当していた真菌（カビ）の研究では、皮膚で繁殖しているカビが宇宙滞在中に増えることがわかってきまし



宇宙医学実験支援システムの実験の様子。© JAXA 宇宙と地上を結んで行った模擬問診で古川飛行士の健康チェックを行う山田医師（右）。飛行士が宇宙滞在中はNASA経由で送られてくる彼らの運動に関するデータを解析し、健康管理を支援することなどが主な仕事だ

た。宇宙ステーションの中では入浴ができないことが原因の一つと考えられますが、今後は皮膚を清潔に保つための技術開発にも期待が寄せられています。

例えば洗い流さなくてもよいシャンプーなど、現在は地上で開発されたものを宇宙での生活にも利用していますが、反対に、有人宇宙開発を通して人類の健康と生活に役立つものを開発すること、それが宇宙医学の究極の目標です。

多くの人が関わる身近な宇宙

米国・欧州・ロシアなど、国際宇宙ステーション計画に参加する国々の様々な立場の専門家と仕事をしたことも貴重な経験でした。

なかでも、宇宙飛行士の健康管理をモチーフとして運動と栄養の大切さを子どもたちに教える教育プロジェクト、「ミッションX」では各宇宙局の教育関連職の代表たちとプログラムを企画し、世界で同時開催するイベントの運営に関わりました。

宇宙開発を生活という視点からみると、宇宙服を含めた被服や宇宙食、水や

空気の供給、トイレの問題など、宇宙船という環境は最先端の技術の結晶である一方で、飛行士の船内での衣食住は、人類の地球上での生活の縮図であるともいえます。宇宙開発はさまざまな分野の異なる研究、技術が組み合わせり成り立っていて、工学や天文学、医学のみならず、産業、教育、文化等ともつながりを持っています。私の場合は医師という自分の専門を活かして、宇宙を身近に感じられるようになりました。

経験を診療等に活かす

杏林に戻る話をいただいたとき、当時のJAXAの上司は「宇宙で学んだことを活かして地上に貢献する研究をすることは、非常に大事なことです」と後押ししてくれました。今、病院では脳卒中患者さんのリハビリをメインに診療を行っています。脳は人体の小宇宙といわれますが、こうしてステージは変わっても、地上と宇宙との接点をいつも意識しながら臨床・研究、そして教育に携わっていきたいと思っています。スケールの大きな仕事がしたいですね。



日本で実施されたミッションXの様子。縄跳びをする子どもたち © JAXA

ミッションX

活動を広めるために国内各地の小中学校を訪れ、講演や実習を行ったほか、海外のイベントに日本の子どもたちを連れて参加したりしました。

オランダの宇宙局と企画した交信イベントの後には、「両国の国際交流の新しい歴史を作ったね」と互いを称え合いました。



三鷹市の保育園で実施した「いのちのおはなしかい」。地域の一員としての学生の活動の場は多様だ



略歴：慶應義塾大学医学部卒業後、慶應大学や杏林大学のリハビリテーション医学教室で勤務。2010年より3年間、JAXAで宇宙医学生物学研究室主任研究員、宇宙飛行士健康管理グループ（併任）として研究活動を行う。現在は杏林大学医学部リハ医学教室講師。引き続きJAXA客員研究員として日本人宇宙飛行士のミッションを支える。日本リハビリテーション医学会指導医・専門医、日本航空宇宙環境医学会認定医

宇宙医学との出会い

私は現在、リハビリテーション科の医師をしています。

子どもの頃、宇宙への漠然とした興味はありましたが、宇宙飛行は遠い世界の話だと思っていました。しかし、リハビリ科の医師として仕事を始めてから、日本人宇宙飛行士の活躍を見て、リハビリが必要な患者さんと無重力下で筋力が低下する宇宙飛行士には共通点が多いのではないかと考えるようになりました。学位研究を終えて博士号を取得し、今後の自分のキャリアについて考えていた時、たまたまJAXA（宇宙航空研究開発機構）が研究を行う医師を募集していて、それに応募したのが宇宙医学に直接携わるようになったきっかけです。

宇宙医学とは

1961年、旧ソ連のユーリ・ガガーリン飛行士が人類で初めて宇宙へ行きました。そもそも「人は宇宙へ行けるのか」という当時の疑問から、宇宙医学研究は始まっています。国際宇宙ステーションでの長期滞在ミッションが進行している現在、宇宙医学の目的は「宇宙で安全に生活するための医学」と「宇宙から地上に貢献するための医学」の二つに大別されます。

JAXAでのミッション

JAXAでは、研究室室長（当時）の向井

平成25年度文部科学省 地(知)の拠点整備事業 「地域と大学」に関する学びが始まる

教育の地域志向化に向けて

平成25年度に本学が採択された「地(知)の拠点整備事業」では、研究・社会貢献に加え、連携3自治体（三鷹市、八王子市、羽村市）と協力の教育の地域志向化が求められています。

まず、本学では平成29年度を目標に4学部で「地域と大学」を科目として確立させていきます。

平成26年度 各学部の取り組み

医学部・保健学部は4月から既存科目の内容を地域志向に変更していきます。総合政策学部・外国語学部では秋学期から新規科目「地域と大学」（1年生対象）

が始まります。

これらの科目は、杏林CCRC研究所・地域交流委員会、さらには連携3自治体および三菱総合研究所を含めた外部団体と連携して展開していきます。

また、平成26年3月にはアクティブ・ラーニング教室が八王子キャンパスE103教室に増設されます。ここでは外国語学部「プロジェクト演習」（2年次対象新設科目）などを通じて、文系2学部による地域課題をテーマとしたPBL型科目を展開します。保健学部では各学科の専門性が地域の中でどのように貢献しているのかについて、実際例を通じて

学びます。加えて各地域でかかえる少子高齢化等への取り組みやそれに関する医療・保健サービスなどに対して、大学のできることを考えます。医学部では三鷹市の協力を得て、学生が地域の医療・福祉の現場を視察し、課題や解決法を探り、その結果を市民に対して発表する授業に取り組みます。

（地域交流推進室長 古本泰之/外国語学部准教授）

教育の地域志向化に向けた各学部の取り組み・計画	
医学部	地域（三鷹市）の医療・福祉体制の現状や地域が医師に求めていることを理解する。これらにグループで取り組み、市民に対する発表の場を設ける
保健学部	現在行われている地域貢献の実践について理解を深め、大学と地域の連携によるより良い社会づくりについて考える。各専門職としての知識・技術を病院や施設だけでなく、地域に出て活動する可能性を模索していく
総合政策学部	秋学期に新規開講（1年生必修）する「地域と大学」をふまえ、平成27年度
外国語学部	には地域課題をテーマにしたPBL型科目（「プロジェクト演習」など）を実施する

平成25年度 学生生活実態調査

学生支援センターでは、毎年度保健学部、総合政策学部、外国語学部の1年生を対象に学生生活実態調査を実施しています。4年に1度、上記対象学部の全学年の学生を対象に大規模な調査を行っており、今年度は2度目の全学年対象調査が行われました。

本調査は学生支援センター事業の質の改善・向上を図るための貴重な情報源として活用す

るため、さまざまな大学生活の局面に対する意識の変化を把握する50の質問を設けました。その中から「学修」「就職」に焦点を当て、大学改革を進めるワーキンググループ第3次中期計画実行委員会の該当部門からコメントと今後の取り組みを紹介します。

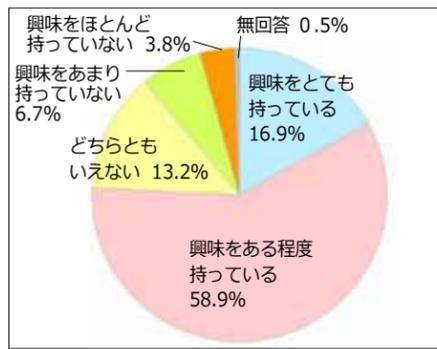
学修に関する調査項目から

教育開発部会長 内藤高雄 (総合政策学部教授)

Q24：講義（授業）の正課科目以外での平常の学習時間、（テスト期間以外で、大学や自宅での自習など）は週平均どのくらいですか

	回答数	%
全体	2815	100.0
1 3時間未満/週	1591	56.5
2 3時間以上～5時間未満/週	615	21.9
3 5時間以上～7時間未満/週	222	7.9
4 7時間以上～9時間未満/週	94	3.3
5 9時間以上～11時間未満/週	84	3.0
6 11時間以上～13時間未満/週	50	1.8
7 13時間以上～15時間未満/週	40	1.4
8 15時間以上/週	94	3.3
無回答	25	0.9

Q18：講義（授業）などに興味を持って受講していますか



教育の質的転換をはかる

教育開発部会では、①学修時間の飛躍的増加と、それを支える学修環境の整備、②学生の「主体的な学び」を拡大する教育方法の革新、③学内教育GP（改革に向けた優れた取り組み）の導入・実施、④大学在学中の学修成果を明確化する仕組みの整備、の4つの項目を柱に、大学教育の質的転換を図ります。

上記の観点から学生生活実態調査結果をみる時、まず講義以外の平常の学習時間を問うたQ24「講義以外での学習時間」の結果に注目しなければなりません。驚くことに週3時間未満と答えた学生が全体の56.5%を占めています。1日あたりに直すと30分未満しか学習していないこととなります。全体の80%弱が週5時間未満の学習時間であるのが実態です。これは4年前に行われた結果とほとんど変わっていません。ある程度以上、講義（授業）に興味を持っている学生は、全体の75.8%（Q18）となっているので、講義（授業）に興味がないわけではないと言えます。

原因の一端はアルバイトにもあるでしょう。アルバイトが学習時間に少なからず影響していると答えた学生は全体の44.9%に上っているからです。

「受け身」から「主体的な学び」へ

しかしながら主要な原因は学生が「受

け身の学び」になっていること、そしてわれわれ教員が学生の「主体的な学び」を導く教育を十分に提供していないことにもあるようです。

実際、課題・宿題を毎回している・ほとんどしている学生は84.9%を占めます（Q21）。これに対して、予習復習に欠かせない資料などが揃い、アクティブ・ラーニングスペースが整備され、さらに文献を調べるという工程が様々な研究活動に役立つ大学の図書館の1ヶ月の平均利用回数は月2回以下が54.6%と半数を超えており、8割弱の学生が月に5回以下しか利用していません（Q25）。

疑問や質問などが生じたとき、学生が自由に教員に相談できるオフィスアワーについても、「制度を知らない」と「知っていてもあまり利用していない」を合わせると89.5%あり、学生が積極的に利用していないのが現状です（Q23）。

学修成果を確実にあげるために

これらの学生実態調査の結果を踏まえ教育開発部会では、学修ポートフォリオ（学生が学修の過程や成果を収集・記録し、自己省察することで自律的な学習を深化させることを目的としたもの）の27年度導入に向けての検討やアクティブ・ラーニング型の学習の検証など、冒頭の4項目に沿って教育の質的転換を推進することにしています。

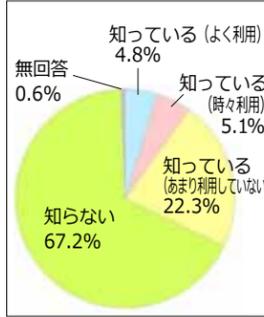
Q21：課題や宿題は毎回、きちんとしていますか

	回答数	%
全体	2815	100.0
1 毎回している	1320	46.9
2 ほとんどしているが、しなときもある	1071	38.0
3 あまりしていないが、する時もある	354	12.6
4 全くしていない	57	2.0
無回答	13	0.5

Q25：大学の図書館を1ヶ月に平均してどのくらい利用していますか



Q23：先生に相談できるオフィスアワーを知っていますか



学習形態に合わせて椅子や机、白板の配置が自由にえられるアクティブ・ラーニング教室（左）。レポート作成用パソコンやグループ学習用のスペースも設けられた人文・社会科学図書館（右）

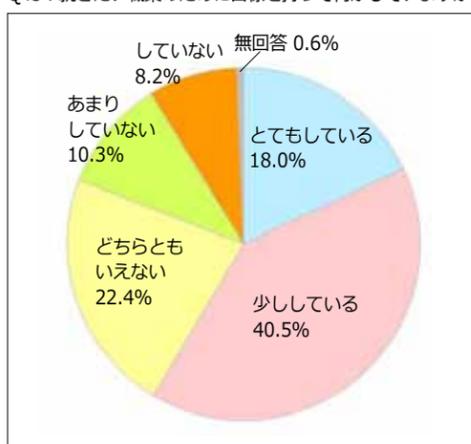
就職に関する調査項目から

キャリアサポートセンター長 宮崎則行

Q41：卒業後の就職に不安を感じていますか

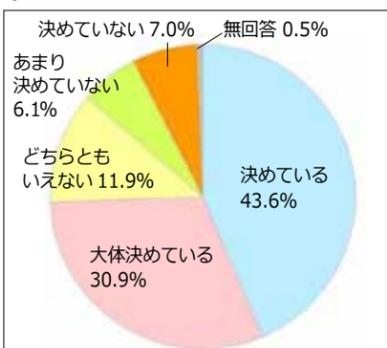
	回答数	%
全体	2815	100.0
1 とても感じている	1096	38.9
2 少し感じている	1080	38.4
3 どちらともいえない	300	10.7
4 あまり感じていない	190	6.7
5 全く感じていない	132	4.7
無回答	17	0.6

Q43：就きたい職業のために目標を持って何かしていますか



調査では就職に関する質問は5項目。就職に対する漠然とした不安を明らかにして、最終的に学生一人ひとりが納得のいく進路を選択できるようキャリアサポートセンターは支援していく

Q44：就きたい職業を決めていますか



「就職への不安を感じつつ 具体的には行動していない」

今回の調査で、就職や将来の進路についての不安や悩みが多いという回答（Q41）が高率だったのは、現下の就職事情が依然厳しいことを考えると当然であろうと受けとめました。一方で、「就きたい職業のために目標を持って何かしている」（Q43）や「就きたい職業を決めている」（Q44）という回答がそれぞれ58.5%、74.5%と多かったのは、国家資格の取得に取り組んでいる保健学部の高率が大きく寄与しているとは言え、頼もしいと思いました。資格取得を目指す回答が高率だったのも同様です。にもかかわらず、「就職のことを意識して行動しているか」という質問に、「意識して行動することが多い」と答えた学生は全体の3分の1と少なかったのは、意外な数字でした。以上を総括すると、就職への悩みや不安が大きく、また目標を持ち就きたい職業を決めている学生が多いことに加えて資格取得だけは目指そうという意気込みも強いものの、就職を意識して具体的な行動を取ろうとしている学生は多くないということになります。

就職に対する不安や悩みを解消するために

キャリアサポートセンター（CSC）では学生の就職に関する不安、悩みを少し

でも解消しようと職員が学生との個人面談に応じており、今年度の面談件数は去年12月時点で前年度の同時期とほぼ同じ延べ2000件余りにのぼっています。26年度CSCでは、面談内容の質を充実させるために専門のキャリアカウンセラーの配置を検討するほか、業界研究セミナーなどの就活プログラムの一層の充実を図ります。資格取得についても学生の希望の多いTOEICや秘書検定、販売士など8講座に絞り開講する予定で、学生には積極的に利用することを望みます。

学生の勤労観・就業意識を高めるために

就職に向けて具体的な行動に踏み切れない最大の要因は学生の勤労観、就業意識が乏しいことと史料されます。現在も学部ごとにキャリア教育の授業が実施されていますが、今回のアンケート結果はその内容の抜本的な充実強化を求めていると言えます。これに対し、第3次中期計画の「キャリア支援」に関するワーキンググループでは、低年次から学生の成長段階に合わせて各学部共通の体系化されたキャリア教育の科目を配置することが重要だとして、今年度半ばから教職一体となった作業グループを立ち上げ議論を重ねています。

CSCでは今回の実態調査の結果を可能な限り今後の取り組みに活かそうと考えています。



3年生を対象に八王子市学園都市センターで行っている企業説明会（写真は昨年のも）。今年は2月12日から14日までの3日間開催され、本学の学生採用に意欲的な企業109社が参加した

卒業生リレー

目標があるから
人生は楽しい

水戸赤十字病院は、病床数 510 床の、茨城県水戸地区における急性期医療を担う中核病院です。保健学部を卒業し、この病院に勤務する長野裕幸さんは臨床検査技師、看護師、臨床工学技士の 3 つの資格を持ち、現在は医療機器の保守管理を行う臨床工学技術課で働いています。長野さんに話を伺いました。

— 病院ではどのような仕事をしているのですか
医療技術部臨床工学技術課で働いています。5 人の臨床工学技士で協力し合って透析や人工呼吸器などの医療機器の保守管理をしています。

毎朝、透析室の機器の電源を入れて治療に備えます。手術日にはダヴィンチ・サージカルシステム（医療用手術ロボット）や麻酔器・電気メスなど使用する機器の準備をします。午後は返却された機器の点検をしたり、病棟を回って、医療機器が適切に運用されているか確認します。

医療機器は便利な反面、患者さんや家族、医療スタッフにはわかりにくいものです。私が説明や声掛けをすることで、治療や看護に対する不安が解消されるといいですね。「冷たい」印象のある機械と、温かみのある人との橋渡しをしたい、と思ったのは看護師の経験があったからこそです。

— 臨床検査技師・看護師・臨床工学技士のトリプルライセンスをお持ちですね

臨床検査技師をしていたころ、より深く患者さんにかかわる医療がしたいと思い、働きながら看護師の資格を取得しました。病棟で看護師として働くうちに医療機器について頼られる場面が多くなり、今度は 1 年間休職して臨床工学技士の資格を取得しました。

専門学校では中島章夫先生（現保健

ながの ゆうこう
長野 裕幸
(保健学部 1989 年卒)



仕事に関する勉強も、好奇心も旺盛な長野さん。昨年はなんと自身の 48 歳を記念して AKB48 との握手会に冷や汗をかきながら参加したとか

学部)に教わりました。20 代のクラスメイトと机を並べることは楽しく、その一人から結婚式に友人代表として出てほしいと言われたときは非常にうれしく思いました。

この間、休職中無給の私を支えてくれたのが同じ病院の看護師である妻でした。周りの助けや理解があってこそできたことで、とても感謝しています。

いまは臨床工学技士を軸に、チーム医療においてお互いの力がより発揮できるように、時に臨床検査技師として、時に看護師としての視点や発想で、心配りをしています。

— 杏林大学病院中央検査部（現 臨床検査部）での実習と在学中の思い出を聞かせてください

在学中、伯父の病院が検査室を立ち上げるために、即戦力がほしいと言われたことから、卒業研究の代わりに 4 年次に杏林大学病院中央検査部で 1 年間の実習を希望しました。でも、本当は下宿先の八王子から、三鷹の大学病院に朝早く起きて満員電車で通うのはすごく嫌でしたね（笑）。

私が最初に指導を受けたのは、血液部門の東克己先生（現 保健学部）でした。当時東先生が言われた「自分が専門職としてお金を稼ぐようになったら、その 1 割は自己研鑽に使いなさい」という言葉をいま実践しています。実習中はたくさん怒られもしましたが、

司茂幸英先生をはじめ杏林短期大学を卒業した先輩から検査に関するあらゆる技術を教わりました。学外実習の場(?)「松の木」(焼き鳥屋)では、人間関係やコミュニケーションの大切さを教わるなど、思い出深い 1 年でした。

在学中お世話になった森田耕司先生は、今は毎年のように、私の働く病院に保健学部のフレッシュな学生を実習に連れて来てくれます。今では水戸赤十字病院には臨床検査技師、看護師、臨床工学技士として私を含めて 5 人の杏林卒の医療スタッフが元気に働いています。

— 若者たちへのメッセージ

どんなときも仲間は大きな力になります。たとえば大学では同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨して勉強に励むことができます。職場では、それぞれの立場で業務を遂行し、チームとして最大限の成果を生むために協力しあうことが大切です。人生において人とのかわりとはとても大切です。

それから、今しかできないことがたくさんあると思います。「なんであのとき、やっておかなかったのだろう」と後悔するよりも、とにかく目標が見つかったら、それに向かって進んでほしいですね。

学園創立 50 周年へ 7

杏林年代記

杏林大学医学部創設 - 1970 年の杏林学園

八王子校地購入・社会の期待に応えるべく医学部開設

杏林学園短期大学が開学して 2 年後の 1968 年、学園は次なる飛躍のため八王子市宮下町の山林 130,332㎡を校地として購入、この頃から大学設立に向けた諸準備が着々と進行しつつありました。

そして迎えた 1970 年、杏林大学医学部の設置が正式に文部省より認可されました。同時期に認可された秋田大学、川崎医科大学、北里大学とともに、戦後初の医学部の認可として、マスコミにも大々的に紹介されました。これは当時、経済成長とともに医師の需要が増えているのに対しその人員が不足しているという、社会の要請に応えるものでした。



5 月 6 日に行われた杏林大学医学部開学式。午前 10 時開式が宣せられ、全員起立のうちに東京消防庁音楽隊の演奏が流れ、国歌が斉唱されました

1970 年 4 月 1 日に開学した医学部は、同年 4 月 5 日に第 1 回入学試験を日大二高の校舎を借りて実施しました。新設校ということもあり 1,800 名近い志願者がありました。5 月 6 日には入学を許可された 99 名の第 1 回入学式並びに医学部開学式が行われました。五月晴れの青空のもと東京オリンピックの時に譲り受けた大型万国旗がたなびく本学の記念すべき日でした。

ガイダンスや病院見学などを経て、新入生の授業が開始されたのは 5 月 18 日。この日は八王子の新校舎で開校式が行われました。八王子キャンパスが医学部の教養課程として使われていたのは、1978 年度までのことで、翌年度からは三鷹キャンパスで 6 年一貫教育が行われることになりました。



開校直後の八王子校舎。校地の造成工事は、山の尾根を谷に切崩していく難工事だった

付属病院開設、40 年間で 3,600 人を超える卒業生

医学部は、1970 年 8 月に母体であった東京三鷹新川総合病院を組織変更し付属病院を開設、1971 年に進学コース 2 年制の付属高等看護学校を設置（1975 年に 3 年課程に学則を変更して再出発）、1976 年には大学院医学研究科を設置しました。これまでに、40 年余にも及ぶ歴史の中、「良き医師をつくる」という教育方針のもと 3,600 人以上の卒業生を輩出、全国各地の病院・医療機関で活躍しています。



※ 1970 年の出来事

- ▼ 日本万国博覧会（大阪万博）。6 千万人を超える総入場者数を記録。
- ▼ よど号ハイジャック事件発生。日本における初のハイジャック事件。
- ▼ 『金閣寺』、『曇国』等を著した作家・三島由紀夫割腹自殺。
- ▼ 「あしたのジョー」(フジテレビ)、「大岡越前」(TBS) 放映開始 など

在学生リレー エンジョイ☆杏林 Life



大学はチャレンジする場所

かせ あつし
加瀬 敦士
(総合政策学部
企業経営学科 2 年)



高尾山がモデルの木暮ゼミ公認ゆるキャラ「たかおー」。八王子の若者の投票率向上を目指して今日もつづやっています

総合政策学部は経済学や経営学、会計学など幅広い分野の科目を受けられる魅力があります。この学部では多くの友人や先生方に出会い、充実した日々を送ることができています。それでは、あつという間に折り返し地点を迎えた私の学生生活を紹介します。

ゼミ活動は 2 年生から始まります。私は選挙権を得る 20 歳を控え、日本の政治の変遷や制度を知って、様々な社会問題を読み解く力を身につけたいという理由から、政治を研究する木暮ゼミを選択しました。木暮ゼミでは国政選挙のたびに出口調査をしており、私も昨年 7 月に参議院選挙の出口調査と学生アンケートを行いました。この選挙からネット選挙が解禁されたこと

で「若者 or 若年層」の投票率向上が期待されましたが、20 代の投票率は全体の 7% と、一昨年の衆議院選挙で先輩方が実施した出口調査結果と比較しても、あまり効果が見られず、改めて「若者 or 若年層」の政治離れを実感しました。

そこで私たちは、商店街・ゆるキャラなどをキーワードに「若者 or 若年層」の投票率向上プロジェクトを企画しました。具体的には商店街と協力し、投票を終えた有権者が割引などサービスを受けられる選挙割や、ゆるキャラを作成し twitter に登場させるといった内容です。このプロジェクトを八王子市内の商店街に提案し、前向きな回答も得ることが出来ました。そして、

ここまでの活動をまとめて昨年 12 月、八王子コンソーシアム学生発表会にてプレゼンテーションを行いました。入賞は逃しましたが、審査員から高い評価をいただき、今後の活動に自信を持つことが出来ました。

その他に私は、サッカー部で週に 3 回ほど活動しています。入部してすぐに膝の靭帯を損傷してしまい、手術とリハビリで長い期間苦しい体験もしましたが、目標を持って前向きに乗り切ることが出来ました。

3 月にはロサンゼルス研修に参加します。苦手で敬遠してきた英語ですが、大学の英語学習システムを活用し、ヒアリングの練習や日常会話に必要な単語を覚えるなどして研修に備えています。木暮健太郎先生は常々、「学生のうちは多くの失敗をしても構わない」と言われ、私たちをやる気にさせてくれます。残りの 2 年間、様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。



昨年 12 月、ゼミ生と臨んだ学生発表会。左端が本人

学部・大学院トピックス

医学部

新しい英語教育

カリキュラムを改訂し、学生のニーズに応えるきめ細かな教育



昨年行われたエバンストン病院(米イリノイ州)での実習。6年次に行われる臨床参加型実習(クリニカルクラークシップ)を海外の病院で行う学生も増えている。カリキュラム改訂により学生のニーズにあった英語指導が可能になる

医学部は英語教育カリキュラムの改訂に着手しました。主な内容は次の3点です。

- (1) クラス編成に学生の実力を反映させる
- (2) クラスを小規模化する
- (3) 目的別のクラスを編成し、学生の需要に応える

これらの導入は段階的に行われるもので、すでに平成25年度の入学生で(1)を導入しています。更に26年度に(2)

を、27年度に(3)を導入する予定です。具体的には、26年度から1、2年生は30人程度の能力別の少人数クラスで授業を行います。外国語の能力を身につけるには、講義形式の授業より、対話なども重視した実習形式の授業が効果的です。また、同じ程度の実力をもつ学生で編成されたクラスでは学生に合った、きめ細かな指導ができます。今後は上級学

年へもこの仕組みを拡大していくことを検討しています。

急速にグローバル化が進むなか、日本国内においても英語は必須の要素となります。医師の活躍の場は国内外問わず広いと、各自の将来像に沿った指導をし

たいと考えています。

このように学生一人ひとりの実力や将来設計に合った少人数での英語教育は、今年4月に三鷹キャンパス内に新しく完成する教室で行われます。

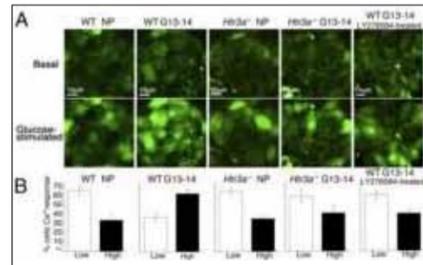
(医学部講師 黒田 航)

妊娠期母体のインスリン分泌亢進のメカニズムを解明

妊娠期の母体では、胎児へのエネルギー源となるグルコース(ぶどう糖)を母から子へ効率的に供給するために、血中のグルコース濃度(血糖)を下げるホルモンであるインスリンが効きにくくなる抵抗性が引き起こされます。その一方で母体では、膵臓のランゲルハンス島のインスリン分泌細胞からのインスリンの分泌が増加し、インスリン抵抗性を抑えて血糖値が上昇しないよううまく調節されています。

医学部生化学教室の今泉美佳准教授と永松信哉教授の研究グループは、マウス実験などにより、この母体での妊娠期のインスリン分泌増加にホルモンの一種でもあるセロトニンが中心的な役割を果たしていることを初めてつきとめました。

この研究成果は妊娠糖尿病の成因解明



カリフォルニア大学や順天堂大学等との共同研究として、昨年11月米国科学専門誌に掲載された。掲載誌の表紙(上)と検証データの一部(下)

だけでなく、近年患者が増加している妊娠糖尿病の新たな治療法の開発につながる

大学院保健学研究科

院生メッセージ 臨床工学分野の先端研究に取り組む

おおぬき まさや

大学院保健学研究科保健学専攻(臨床工学分野) 博士後期課程2年 大貫 雅也



流体解析を行い、最適なポンプ形状について検討しているところ

大学院博士前期課程を経て

大学院保健学研究科博士前期課程では研究と勉強でかなりせわしい2年間でしたが、博士後期課程では比較的時間に余裕ができ、より腰を据えて研究に打ち込めるようになりました。現在は、自分の研究について指導教員からより高度で専門的なアドバイスを受けると同時に、実験データなどに関する意見交換をし合う日々を送っています。

人工心臓の研究

私の研究テーマは「人工心臓」です。人工心臓は大きく分けて2種類あります。一つは補助人工心臓といって、弱った心臓を補助するものです。植込み型補助人工心臓は、国内でも既に3機種が保険適用されていて、心臓移植までの橋渡しとして使用されています。海外では、心不全の最終的な治療法として補助人工心臓を選択するケースもあります。

もう一つは完全人工心臓です。完全人工心臓は、心臓をすべて取り出して2つ



の血液ポンプに置き換えるものです。心臓以外にも問題があって移植適応外とされた患者さんの救命のため、あるいは植込み後に拒絶反応がないなどの観点から、大学などの研究機関を中心に研究開発が行われています。一口に人工心臓の研究と言っても、駆動方法、生体適合性、耐久性などの小項目を一つ一つクリアしていかなければならないのです。

完全人工心臓の試作をめざして

現在私はカスケードポンプを完全人工心臓に応用することを目指しています。カスケードポンプは主に産業用や井戸水の汲み上げなどに用いられているポンプですが、身体に植込むことを考えると、他の血液ポンプと比べて解剖学的により心臓に近いポンプレイアウトが可能になるので、カスケードポンプに着目しました。現在、血液ポンプの試作までは終了しているので、今後は溶血試験を行う予定です。

大学院での研究期間はあと一年間足らずですが、目標に向かって研究を進めたいと考えています。



大学の学びや研究の面白さを伝えたい

杏林大学の高連携



簡易白衣を着て実験を行う高校生。手指にどんな細菌がいるのかをグラム染色をして調べる実験の様子。前日から培養していた細菌のコロニーをスライドガラスに採り、乾燥、火炎固定、染色の工程を経て、顕微鏡でブドウ球菌や枯草菌の芽胞などを観察してスケッチを行った。生徒からは「聞いたことしかないブドウ球菌の観察ができた」「本格的な実験で、はじめて見る薬品や機器を使えて楽しかった」「手にある細菌の多さに驚いた」などの感想が聞かれました

大学での学びや研究の面白さを知ってもらおうと、本学では高校生を対象とした体験講義・実習を実施しています。

昨年11月30日、聖徳学園中学高等学校(東京都武蔵野市)の生徒10人が三鷹キャンパスの医学部感染症学教室で体験講義・実習を受けました。

この日のためにつくられた「細菌学体験実習テキスト」をもとに、20分程度の講義「細菌とはどんな生き物なのか」を受講し、続いて白衣に着替え、「手洗い効果の判定」、「グラム染色 手の表面にはどんな細菌がいるか?」の2つの実習を約90分にわたり体験しました。

学びのパートナーとして

高連携促進部会長 木崎英司(外国語学部教授)

高連携促進部会は、杏林大学第3次中期計画の5つの事業の一つである「大学の機能強化事業」に位置付けられています。高連携の目的は、高校生が戸惑うことなく高校から大学への学びに移行できること、また学問に対する関心や学習意欲を高めて進学目的を明確化することなどにあります。

本学高連携促進部会は次の施策に取り組みます。

- ①高連携の推進
- ②高連携教育協定の締結の拡大
- ③高校生の杏林大学講義への参加促進
- ④スプリングセミナー、サマーセミナーの開催
- ⑤高校教員と本学教職員による高連携協議会設置の検討

今年も3月26日(水)、27日(木)

に八王子キャンパスでスプリングセミナーを開催し、高校生に本学の特色ある教育や研究活動を模擬講義・体験実習として体験してもらいます。さらに今後は、より効果的な高連携を進めていくために、高校と大学が連携して企画を提案していきます。



スプリングセミナーでは、保健学部「救急救命から機能回復までの知識と技術」、総合政策学部「東日本震災から3年・わたしたちができること」、外国語学部「日本のグローバル化と東京オリンピック」を企画

総合政策学部

ベストティーチャー賞3部門が決定 学生の声を授業に反映させる試み



現代社会の問題を理解して解決するために、総合政策学部は複数の学問分野を組み合わせる幅広い学びが特長。課題解決のために議論を重ね、その結果をプレゼンテーションする学生(左)。マルコム・フィールド教授による異文化について学ぶ授業は英語で行われ、グローバルな視点を養う

毎学期末に実施している学生による授業評価アンケートの結果に基づいて、「ベストティーチャー」を表彰する制度が始まりました。この制度では、授業満足度・学修支援度・学際演習の3部門それぞれについて、アンケートの得点の高い順番で表彰対象となる授業を選定します。

※学生による授業評価： Semesterごと(前期・後期の年2回)に実施する。授業の環境、教員の説明、教員の学修支援、授業満足度など8項目を無記名式で5段階評価する。

平成25年度前期に表彰されたのは、授業満足度部門では木暮健太郎准教授(公共選択論Ⅰ)、学修支援度部門では高田京子准教授(商業簿記各論Ⅱ)、学際演習部門では、進邦徹夫教授・岡村裕准教授・川村真理准教授(学際演習5)でした。

表彰は今年度初めての試みですが、学生の声を授業に反映させるための手法の一

つとして、改善しながら活用していきたいと考えています。

(総合政策学部FD委員会)

ベストティーチャー・学修支援度部門
高田京子准教授



授業の最後に学習ポイントを3～4項目にまとめた「確認テスト」をしています。学生の理解度を把握して、教え方の見直しに役立てるためです。答えは次回の授業で返却し、模範解答と採点基準を説明します。

また、授業で扱う内容をできるだけ学生に身近な話題に引き寄せ、それから専門的な話や実際の事例につなげよう意識しました。

授業の履修者は30人で、学生の反応が把握できるちょうどよい規模です。毎回、学生とともに学ぶつもりで試行錯誤を重ねながら授業をしています。

【ベストティーチャー賞 3部門の紹介】

授業満足度部門

授業の内容や水準、展開や教材の充実度、教員の語り口や情熱など、学生が授業内容にどれだけ見込みを感じ、学習に充実感・達成感を感じたかのポイントを測ります。

学修支援度部門

学生が授業の内容理解を確実にできるよう、学生一人ひとりの学修状況を把握しながら教員の側からどのような助言や質問対応、課題提示などが行われたかなど、学生が教育効果の高い授業と感じたポイントを測ります。

学際演習部門

総合政策学部の教育の特長である、複数の専門分野の視点から、指導教員がチーム授業でテーマを追う「学際演習」。学生の積極性や対応力、問題解決力が授業を通して推進されるよう設定。テーマの魅力と達成感を測ります。

外国語学部

基礎演習プレゼンテーション大会 地域課題に学生視点でチャレンジ



基礎演習の各クラスは英語・中国語・観光交流文化の3学科の学生で編成され、専門分野の異なる教員2名が指導にあたりました。「にぎわい」をテーマにした発表ではタイトルにも学生らしさが出る(上)。発表に聴き入る学生(左下)。「おもてなし」をテーマにした発表で「傘かしげ」を実演(右下)

外国語学部1年生が履修する必修授業の1つ「基礎演習」は、春学期は大学での学びに必要な基礎的な知識・能力の修得に重点を置き、秋学期は学生主体の学びに重点を置いた「課題発見・問題解決型」の授業を展開しています。

秋学期は、本学が文科省事業として採択された「グローバル人材育成推進事業」と「地(知)の拠点整備事業」に関連し、「国際化」と「にぎわい創出」についてグループ発表の準備を行いました。

発表会は1月11日に行われ、45グループが「三鷹市の国際化」「羽村市のにぎわい創出」「杏林大学の国際化」など自分たちが設定したテーマで提案を行いました。

各グループともテーマに関する課題点や問題点を見つけるために何度も三鷹市、八王子市、羽村市などでフィールドワークを行い、議論を繰り返し、「学生視点」の問題解決策をまとめました。

各発表は、課題や問題解決へのアプローチが論理的であるか、効果的なプレ

ゼンテーションができていかなど5項目を上級生が審査し、優秀・準優秀グループを決めて表彰します。学生たちは、杏林大学と海外の大学を比較するために海外の大学の国際交流センターに英語で質問のメールを送るなどしてプレゼンテーションの準備を行いました。また、三鷹市民の方々に直接インタビューをして街の魅力を探るなど、教室の中だけでは体験できないことをたくさん学びました。

プレゼンテーションでは学生と市民が触れ合うカフェを作ることや、高齢化社会に備えた暮らしやすく人々の集う仕組みづくりなど、実現の可能性が高い提案も多くありました。外国語学部では、このような授業をとおして、自ら考え、動いてチャレンジすることや協力して一つのことを成し遂げる力を身につける授業を今後も行っていきます。

(基礎演習コーディネーター

外国語学部准教授 古本泰之・倉林秀男)

八王子・三鷹両キャンパスではクラブ、サークルとして80団体が活動しています。今回は、アーチェリー部とマンガ研究部を紹介します。

●アーチェリー部 明日から始められるスポーツ アーチェリー



昨年の大会風景。女子は30～70m、男子は30～90mの各距離的に向け36本ずつ矢を射ち、計144射の合計点を競う。的は中心に近いほど点数が高い。制限時間内にどれだけ精密に中心を狙えるか集中力が試される競技

アーチェリー部は医学部と保健学部看護学科の学生34人が所属し、週3日三鷹キャンパスや三鷹市役所の射場で練習をしています。

昨夏、全国8大学の医学生約200人



スポーツ祭東京2013で、三鷹市は障害者アーチェリー競技の会場になりました。私たちは出場選手のサポートを行いました

が参加して第28回全日本医科学生アーチェリー競技大会が行われ、女子団体優勝・男子団体3位・女子個人優勝などの好成績をおさめることができました。ほぼ全員がアーチェリー未経験者の私たちにあって、練習場の提供や指導の面で支えてくださる三鷹市アーチェリー協会やOB&OGの存在は大変大きいものです。

社会人の大会にも積極的に参加し、「弓を手にとったからこそ出会った」幅広い年代の方との交流は色々な世界を知る貴重な機会です。アーチェリーは、子供から高齢者まで、体が不自由な方も、いつでも始められ、生涯楽しめるスポーツです。ぜひ多くの方に親しんでもらいたいと思います。

(アーチェリー部主将 医学部3年 酒井透)

●マンガ研究部 個人作品だけでなく団体作品も作ります!

マンガ研究部は3年前“部”に昇格しました。八王子キャンパス3学部合同の部活で現在26人(男女比はほぼ1:1)で活動しています。活動日は毎日!ですが、無理に毎日来なくてはいけない訳ではないので、みんな自由に活動しています。

普段は個人が思い思いにイラストや漫画を描いたり、小説を書いたりしています。J棟にある部室にはイラストを描くための参考資料をたくさん揃えていて、それらを見ながら独自に練習することはもちろん、部員同士アドバイスし合ってレベルアップしようと努めています。

昨年12月には日野市のイルミネーションイベントにオブジェを出展しました。蜂の巣と雪をイメージした、高さが2mほどある大きなものです。針金やフェルトで作った細かな作品を蜂の巣に見立てた箱に収め、箱の内側からライトで照らして柔らかい光が漏れ出る演出にしました。

このようなイベントでは部員が一丸となって作品を作りますが、慣れないこと



「春と秋の年2回発行する部誌“あんまん”をぜひ読んでみてください」と話す岡山真唯さん(左)と澁谷彩乃さん

もあり苦労も多かったです。寒い中、夜遅くまで活動をしたり、使い慣れない電動ドリルを駆使したり、細かい作業を長時間行ったりと様々なことがありましたが、みんなで協力して素晴らしいオブジェを作り上げ、また多くの方に見ていただいたことは最高の思い出になりました。

(保健学部2年 澁谷彩乃)



出展オブジェの前で撮影

キャンパス情報⑩

日伸ファシリティ株式会社



本社は東京都新宿区歌舞伎町1-1-16 テイクイトレード新宿ビル3F。平成元年6月設立。現在従業員数は約500人。テイクイグループに属し、総合ビルメンテナンスをはじめ、警備、清掃業と幅広く業務を行う。本学八王子キャンパスのほか、東大本郷キャンパスや法政大市ヶ谷キャンパスでも清掃業務を請け負う。

平成13年から八王子キャンパスの文系学部の校舎棟や学生食堂、職員寮など9棟の建物の内部清掃業務を一手に引き受けているの

が日伸ファシリティ株式会社です。今回は八王子キャンパス責任者の望月 順一さんを訪ね、話を伺いました。



「学生や教職員の皆さんに気持ちよく過ごしてもらおう空間を提供したい」と話す望月さん

—どのような仕事をされているのですか

私は13年前から八王子キャンパスを担当しています。建物内の日常清掃業と、学生が長期休暇中の春と夏の年2回の定期清掃を私を含めて13人のスタッフで行っています。

—清掃の仕事で一番大切なことは何ですか

毎朝のミーティングでは「マンネリ化はNG、日々探究心を持って！」を合言葉に仕事をスタートさせます。

実は清掃の仕事は奥が深いんです。プロとして綺麗に仕上げることは当たり前です。他施設で働く同僚の仕事を見学したり、情報を交換する機会を設けて、日々の業務の参考にしています。

スタッフは常に挨拶・身だしなみ・マナーに気をつけています。社風の「明るく・元気で・素直な」を心がけています。

毎日の仕事で、大学の建物の美観を保ち、建物の寿命を延ばすことにつながっていると思うと、励みになります。

—学生の様子で変化を感じますか

最近はやホンをして一人の世界を楽しんだり、スマホ操作に夢中の学生が多くなった気がします。一見とっつきにくく、話しかけにくい雰囲気もありますが、そういう学生から挨拶をされると嬉しいものです。

—学生に伝えたいことはありますか

せっかく杏林大学に入学したのですから、人との出会いなどをきっかけに自分の殻を破って、いろいろなことにチャレンジしてほしいですね。

「明るく・元気で・素直な」気持ちで、コミュニケーションの幅を広げていってほしいです。ごく当り前の言葉のようですが、なかなか実践できないものです。

ごく当り前の言葉こそ自分自身に置き換えて、ぜひ充実した大学生活を過ごしてほしいと思います。

数字で見る杏林大学 ⑪

3288?

3288、この数字は就職希望の学生のために昨年4月

から今年1月末までに郵送で求人があった企業や病院、自治体等の数です(医学部を除く)。近年はこうした昔ながらの求人ほかに、webサイトで杏林大学の学生向けに求人を出す企業も多くあります。また、学生が自ら就職活動を進める場合も少なくありません。

求人の分野を文系でみますと、サービス業が約42%、卸売・小売が約22%、情報・通信が約16%、製造業が約10%、金融が約3%などとなっています。3年生の6月頃からキャリアサポートセンターが、就職ガイダンス、就職基礎講座、就活トライアル・シミュレーションなどを学生向けに行い、学生の就職への意識を高めていきます。その後、夏休みには企業見学やインターンシップで実際の職場を体験する機会もあり、「働く」ことを一層身近に感じるようになります。杏林大学は教育のグローバル化を進めていますが、グローバル関係企

業16社でのインターンシップも実施しました。さらに保護者向け就職説明会も行っています。企業の採用活動は3年生の12月から解禁ですが、実際の就活で困ったことはキャリアサポートセンターや教員が相談にのります。

保健学部向けの求人は病院や公務員、施設等が多いため、昔ながらの求人票や履歴書を中心に4年生の夏ごろから本格化します。求人の分野を職種別でみますと、理学療法士が約30%、臨床検査技師が約27%、臨床工学技士が約15%、看護師が約11%、社会福祉士が約9%、養護教諭が約4%などとなっています。国家試験の合格を前提としている求人がほとんどのため、学生も試験勉強と就活の二足のわらじで頑張っています。

昔はアルバイト経験が重視されることもありましたが、今は成績や学習の成果を重視する傾向も強いとマスコミは報じています。景気も少しずつ上向いてきました。4年間の学生生活を充実させた結果として、満足いく就職ができるように杏林大学は支援しています。



1年生を対象に実施した就職説明会(左)、3年生を対象に年2回実施する就職関連イベント(右)

2014年度 大学行事・イベント (平成26年3月~平成26年9月) ※予定

- 3月18日(火) 卒業式(春学期)
4月4日(金) 授業開始(春学期)
4月6日(日) 入学式
6月上旬 杏会総会(保健・総合政策・外国語学部)
7月23日(水) 授業終了
7月24日(木)~ 定期試験
8月上旬~9月14日(日) 夏季休暇
9月12日(金) 卒業式(秋学期)
9月16日(火) 入学式(秋学期)

*医学部の授業開始・終了、夏季休暇はこれとは異なります



金田一 教授の研究室から ⑪

金田一秀穂 (きんだいち ひでほ): 1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、ミエール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる。

中央フリーウェイの富士山

車で通っている。往復、中央高速道を使う。あのユーミンの歌った、中央フリーウェイである。あの歌ができたのは、今から40年近く前である。中央道の下り線、右側に府中の東京競馬場が見えて、すぐに左側にはサントリーのビール工場がある。今も変わらない。

ただ、あの頃もユーミンが見たに違わず、今も見えていて、しかしあの歌では一切触れられていない、とても印象的な風景がある。西の山並みにそびえる富士山である。特に澄み切った青空の冬の朝は、真白き富士の嶺が鮮やかに目に飛び込んでくる。

八王子で出るまでの間で、富士山が運転席正面に見えるのは三か所である。調布の入り口付近、日野橋付近、そして石川PA付近。見える姿が、だんだん大きくなっていく。三か所のうち、最も美しいのは、日野橋付近である。平日の朝の下り線は空いていて、気持ちがいい。思わず気分よくアクセルを踏み込む。やがて左へゆっくり大きくカーブする。まるで滑走路のようだ。ユーミンが言ったのはこの辺だろうか。そうして左側から、奇跡のように突然、白く輝く富士が現れる。おかしなことに、たいていの場合、ここで周囲の車のスピードが一斉に

緩む。アクセルを踏み込んでいた足が浮くのであろう。中にはブレーキランプの灯る車もある。

変に浮ついていた気分が、落ち着く。冷静さを取り戻す。あるいは、毛羽立って、ささくれ立っていた気分が、この景色を見て、穏やかに静まっていく。今日一日の前途を祝福されたような気になる。

富士山の魅力は、いつも変わらず不動の場所に在って、変化する自分の立ち位置を見るたびに確かめさせてくれるからだ、という説がある。非日常的スケールと美しさを持ちながら、まったく変化しないという処に、富士山の秘密があるように思う。

ユーミンは中央フリーウェイで富士山を歌わなかった。お洒落で浮遊する現代性の中に富士山を取り込むのは難しかったのかもしれない。しかし、富士山があつてありがたいことだと思う。このありがたさを感じてしまうと、ユネスコによる世界遺産認定などというのは、おそろしく無駄で余計な看板にすぎないと思えてくる。

2年後、大学が吉祥寺に移転することになった。通勤時に富士山を見られるのも、あと少しである。



健康ひとくちメモ ⑪

肺を鍛える?



「肺を鍛える」ことはできるでしょうか? ジョギングなどを始めた当初は1km走るのも息が切れていたのが、続けていくうちに10km以上走っても平気になってきます。これは、肺自体がよくなるのではなく、いわゆる有酸素運動を繰り返すことによって、体が酸素をより有効に利用できるようになるからです(運動時最大酸素消費の改善)。

私の専門である肺癌の治療においては、肺活量などの換気機能だけでなく、階段が楽に昇れるかなどの運動負荷テストも手術が可能かの判断に重要です。肺気腫が強く通常の基準では手術は難しい患者さんでも、日常の運動能力が保たれているとなんとか手術を行うことができます。

また、換気機能の改善、つまり、肺へ空気の入出力させている各種の筋肉を鍛えることはできます。呼吸に関与する筋肉は、横隔膜、内外肋間筋、斜角筋、腹直筋、胸鎖乳突筋、大胸筋、外腹斜筋など非常に沢山あります。呼吸を整えなが

らのヨガやラジオ体操などで、これらの筋肉を鍛えるのもよいでしょう。

数年前、途中までですがヒマラヤに登った友人が、土産話の中で「ろうそくを吹くような息をすると楽だったよ」と言っていました。これは、口すぼめ呼吸といってPEEP(呼気終末陽圧)つまり肺の中の気圧を高めて酸素がより有効に血中にはいるようにする呼吸法で、彼はそれを自然に学んだようです。

このように、ふだんの有酸素運動や呼吸法の練習は大事です。しかし、実は、臓器としての肺自体は鍛えてよくなるものではなく、加齢に伴い少しずつ気腫性の変化などが起こり機能としては低下していくのです。したがって、一番重要なのは、臓器としての肺を大切に使うこと、特に喫煙などによって肺を痛めないように心がけることです。

(近藤晴彦: 杏林大学病院呼吸器・甲状腺外科教授)

こんどう はるひこ 東京大学医学部卒業、国立がんセンター病院肺外科、静岡県立静岡がんセンター呼吸器外科部長を経て、平成24年より杏林大学医学部外科学。専門は胸部腫瘍学(肺がん)



編集を終えて

- 編集作業が本格化した2月、2度目の大雪で八王子キャンパスはこれまでに経験のない70cmをこえる積雪を記録しました。すべての交通手段を奪われた非常事態は、何時間も歩いてたどり着いた職員の方の懸命な対応に助けられました。(有)
今号2ページで紹介しておりますが、この春、杏林に2人の最強女性リーダーが誕生しました。(有)
資格取得で勉学に追われる理系と違い、文系学生の講義外学習時間の少なさは何も本学に限らないようです。日本企業の文系学生に対する採用活動はこれまで学業成績はそれほど重視されず、面接でコミュニケーション能力を見るのが中心でしたが、最近、面接前に成績表提出を求める企業が増えていると報じられています。「課題に対して文献などを進んで調べたり、フィールドワークをしたり、まとめて発表(プレゼン)する主体的な学び」は、就職後もきちんと働けるかを見るモノサシとしてますます重視されていくのではないのでしょうか。(ふ)